



NO. 36 (通算36)

絵・文・題字
渋谷 一夫

富士山の謎 (6)
ジグザグ道と砂走り

大半は、下山に「砂走り」を選ぶ。

世界遺産に登録された富士山も、いよいよ登山シーズンに入った。大方の登山者は、五合目にある幾つかの駐車場から登り、須走口や御殿場口の「砂走り」を下山するようだ。何故だろう。

「砂走り」って、一体何だろう。富士山独特の現象なのだ。どうしてできたのか探ってみよう。



6合目付近 (周辺は岩石と火山)

富士山の夏山は、7月1日が山開き、8月26日の富士吉田の火祭りまで終わる。僅か2か月だ。同時に山小屋も閉まる。

7月下旬から8月上旬が最盛期。この時期は天気が安定するのだ。今年も何万人も登るだろう。だがその

登りはジグザグ
下りはズズズーツ

富士山は、急傾斜なので直登は難しい。予め作られたジグザグの登山道を、時間をかけてゆっくり登るのが常道だ。できれば、途中の山

小屋で1泊したい。そして翌朝、山頂でご来光を拝めれば最高だ。

山を下るときは、登りのジグザグ道ではなく、「砂走り」を利用する人が多い。下山道全体が火山れきで、足を1歩踏み出すと、急斜面をズズズーツと数mも下つてしまふのだ。快適だ。だが凶に乘ると、膝を痛める危険があり要注意だ。

何故できた「砂走り」

「砂走り」は、富士山の東側にある。須走口と御殿場口だ。西側にはない。何故だろう。噴火の歴史を見ると、1万年前位までは、爆発的

な噴火が多く、赤土を作った火山灰が降り注いだのもこの頃だ。その後、スコリアという黒っぽい軽石や火山灰の噴出は、やや下火になり、大量の溶岩が噴出した。三島溶岩や猿橋溶岩がそれだ。粘り気のないサラサラした玄武岩で、数10kmも流れ下つたのだ。それが、2、3千年前になると、やや粘り気のある、ゴツゴツしたブロック溶岩に変わってきた。また、噴火も、山頂からだけでなく山腹からも始まったのだ。

この「砂走り」は、富士山独特の現象である。

噴出物も変わってきた。溶岩だけでなく、スコリアという軽石や火山灰も同時に噴出してきた。

偏西風が砂走りを

噴出した軽石などのスコリアは、火山れきや火山灰と共に、山腹や山麓に大量に堆積した。粒子の大きい火

